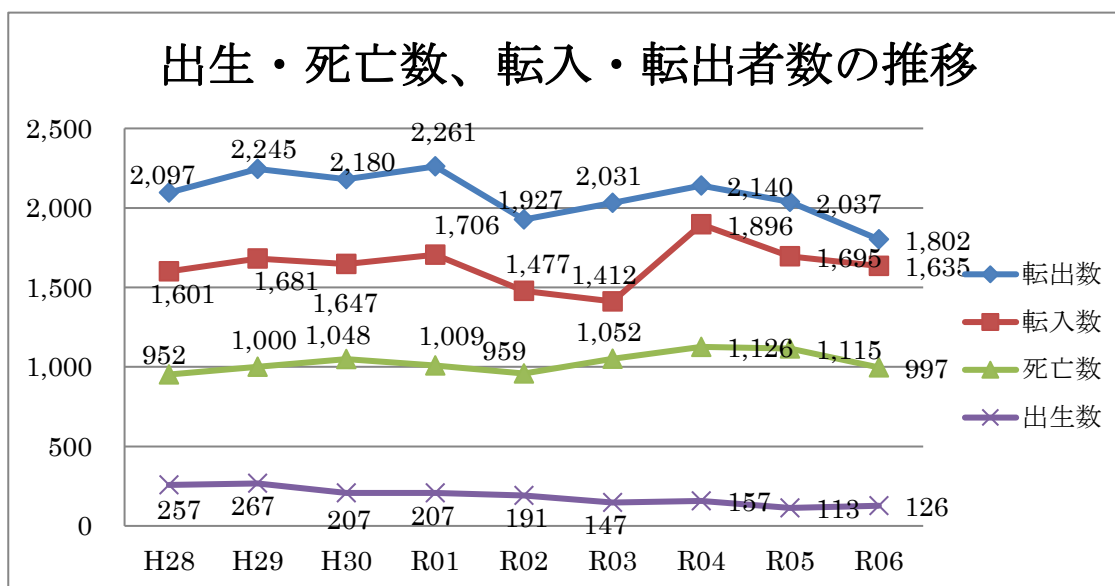
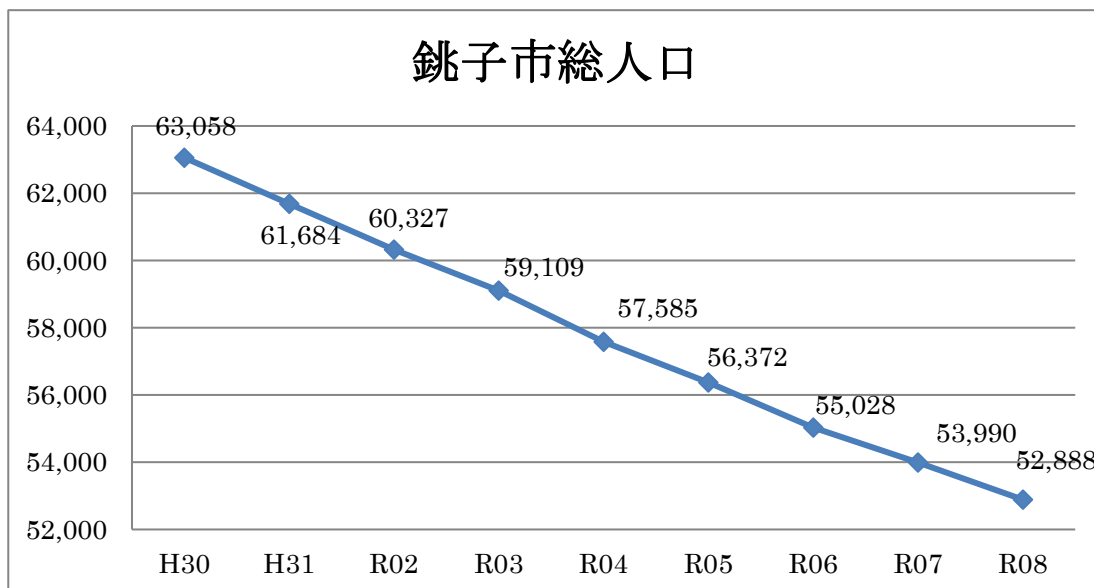


本市の状況

【総合戦略の目的および経過】

銚子市しごと・ひと・まち創生総合戦略は、喫緊の課題である人口減少問題を克服し、銚子創生を成し遂げるために、各種個別計画との整合性を図りながら、分野を超え横断的に取り組む「戦略的ビジョン」として位置付け、5か年の基本目標と具体的施策をまとめたものである。令和2年3月に第2期の戦略を策定し、年度ごとに4度の改訂でそれぞれ取組を追加した上で、令和7年3月で計画期間を終了した。現在は、この第2期に続く、第3期の計画を令和7年4月から4年間を計画期間として実施中である。

令和2年10月の国勢調査では58,431人（前回（平成27年10月）64,415人）、前回と比較し5,984人（▲9.29%）の減少となり、人口の減少傾向が続く厳しい状況となっている。



※出典 総人口：住民基本台帳（各年1月1日現在の数字を使用）

出生・死亡数、転入・転出者数：銚子市統計書

【令和7年度の状況】

新型コロナウイルス感染症の影響はほぼなくなり、不特定多数が集まるイベントについても、銚子みなとまつりや黒潮よさこい祭りなどはそれぞれ再開し、海水浴場についても令和4年度から再開している。観光需要については、コロナ前の状況（令和元年観光入込数2,554千人）までは回復していないが、8割程度（令和6年観光入込数2,130千人、令和元年比 83.4%）までは戻ってきている。

雇用環境についても、銚子公共職業安定所管内の有効求人倍率は、0.85倍（2023年10月）から、0.98倍（2024年10月）、1.03倍（2025年10月）となり、若干ではあるが回復傾向となっている。ただし、求人と求職のバランスのみの数値であるため、事業者側にとって求める人材の応募が無く、人手不足となっており、市の入札等においても不調となることが出てきている。

洋上風力発電事業は、令和3年に発電事業者が決定し、令和10年9月の運転開始に向けた手続が進められていたが、洋上風力発電事業者の構成員である三菱商事から令和7年8月に事業性再評価を行った結果、洋上風力発電プロジェクトの継続を断念し、事業から撤退する方針が示された。現在国により再度の事業者選定に向けた公募手続を行う準備が進められている。洋上風力発電は、地域において漁業共生、産業振興、雇用創出など多方面で波及効果が期待できることから、銚子市沖での早期の再公募および確実な実施を求め、引き続き、地域と共存・共栄の理念のもと洋上風力発電を推進していく。また、令和5年3月に「ゼロカーボンビジョン」を策定し、地域特性を生かした脱炭素につながる再生可能エネルギーの導入・活用を進めていく。